

普天間飛行場周辺まちづくり事業（普天間地区）住民説明会 質疑応答の内容

※回答内容については、一部修正や補足のため、追記しております。

施設の管理について

1. 各施設が完成した後の指定管理はどのような方法を目指しているか。

現在、門前広場は供用開始しており、市施設管理課で管理を行っている。

今後整備される並松街道や参道広場、交流拠点施設等、普天間地区の各施設完成後は、一体的な管理を検討しており、市民経済部にて所管課を定める想定。その後、指定管理等の管理者を定めていく想定。

並松街道について

1. 読み方は“なんまつ”街道なのか、“なんまち”街道か。

方言読みで “なんまち”街道 としている。

2. イメージパースを見ると、普天間高校の施設内に並松街道があるように見えるが、普天間高校と並松街道で境界線はあるのか。

境界線については、フェンスおよびブロックにて仕切りがあると認識。

3. 以前の計画では、並松街道は右左両方に松があったのではないかと思うが、変更されたのか。変更されたのであれば、その経緯を教えてほしい。

イメージパースでは、片側だけの整備のように見えるが、実際は千鳥型（右左交互）の配置で整備を行う予定。

平和祈念像原型関係について

1. 平和祈念像原型は石膏でできており、壊れやすいと聞いているが、補修はどのような方法でやっているのか。

原型は石膏ではなく漆喰でできている。

内部は、樹脂を浸透させ、その上からFRP（繊維強化プラスチック）で固めるという工法を行っている。外部は、樹脂含浸のみの予定。

後に登録文化財を目指しており、いずれ（20,30年後）文化財指定にできる

ことも可能と考えている。そのため、価値を損なわないよう、新たな技法が出た際に、現状の補修した内容（樹脂等）を取り除き、新たな補修を行うという可逆性が求められるため、この補修方法を行っている。

平和祈念像原型は、補修後、仮設養生棟に移設し、その後、交流拠点施設を作り、そこに戻すという工程を予定している。

2. 山田真山先生は、ペプシコーラを飲みながら、原型を作っていて、飲んだ後そのまま瓶を置いていたようだが、瓶を保存して残すという考えはあるか。あれば、ぜひ保管してもらいたい。

アトリエには、祈念像のミニチュアの像や、コンクリート床面に雲（瑞雲）のような模様が描かれており、祈念像制作に関わるものと考えている。

そのため、この模様の一部は、現在、博物館に展示している。

コーラ瓶は、アトリエから資料収集を行った際に残されていなかったため、市ではコーラ瓶を所蔵していない。

施設の利用方法について

1. 交流拠点施設や門前広場の活用方法について、今後どのように市内外の方々に利用していただくかを考えている。

市長からも「宜野湾（ギノワン）が一番」とあったが、「技能（ギノウ）が一（ワン）番」ということで、例えば、技能のまちとして、技能資格検定等の試験会場としての利用はどうか。門前広場では、技能士が集まって、何か展示することもできる。試験を受けるときに、神宮があるので、神頼みをするということも可能。そういう意味で、神頼みができるのではないか。

現在、検定資格や国家資格、民間資格など、約1,000種類あると聞いた。

ここで試験を受けることによって、試験の時に人が集まるので、活気が出ると考える。交流拠点施設の使い方にあまり具体的な説明がないと思い、ここ独自の使い方をしたい。

交流拠点施設2階には研修施設、体験施設、それから3階の多目的ホールがあり、試験会場等で利活用可能と考える。

利活用の検討について、地域住民の方々の意見も伺いながら進めていく。

2. 交流拠点施設に関して、例えばホームページなどで利活用について公募や意見を集めることは検討されているか。

今現在、そのような募集は行っていない。今後、地域の声が反映できる仕組みを検討していく。

その他（普天間高校の改修について）

1. 普天間高校が改築するということで、今ある正門が移る可能性があるという話があると聞いた。

普天間高校の改修が予定されており、随時、県の担当者と調整を進めている。正門については、現位置より市役所側、現在バス停や売店があるところに移動すると聞いている。

その他（普天間交差点横断歩道橋について）

1. 横断歩道橋は残す方向なのか。デザイン等についての要望はあるか。

地元からもご意見があがっているように安全性を考慮すると横断歩道橋は撤去しない方向で進めている。

普天間1区、3区自治会より普天間飛行場周辺まちづくり事業と調和が取れるようなデザインや配色という要望を承っており、門前町を感じられるような改修イメージにて、国道事務所と調整中。

2. 地下道の整備は難しいのか。

地下道については、普天間交差点の雨水の排水が通っており、これを避けることができないため、地下道を作る場合はかなり深くなるが、深くすればするほど治安が保てないこと、さらに、費用的にかなりの金額がかかるということ、地下道の建設は難しいという認識。

3. 沖縄市の呉屋十字路みたいな、スクランブル交差点にするのはどうか。

人が横断すると、右左折の阻害になる。今後、琉球大学病院や医学部が開院、開学するため、交通状況の様子を見ながら、検討する必要があるが、現状では難しいという認識。